

# 設 立 趣 旨 書

## 1. 趣旨

私たちは、2011年から、昆虫に持続可能な社会づくりを助けてもらうという信念のもと、民間団体「昆虫エネルギー研究所」を立ち上げ、主に食資源としての昆虫を研究し続けています。

人類は太古の昔から昆虫を食料として、また、シルクやハチミツの恵みを得てきました。廃れゆく養蚕や養蜂、昆虫食を復興させること、また、創薬や機能建材として豊富な昆虫資源を活用することは、環境危機に対する未開拓の重要な手段となっています。

一方、2013年に国連のFAO（食料農業機関）において、増え続ける世界人口に対し、迫り来る食糧危機に対する重要なタンパク源として昆虫食を推奨する報告書が提出されたことにより、世界的に昆虫食が注目され始めました。今では、世界各地で昆虫食を販売、養殖するという企業が増え続けております。

私たちも、昆虫食は栄養価と安全性が高く、環境負荷が低いので、持続可能な社会作りに必要であると確信していますが、日本では昆虫を食すということに、まだまだ抵抗があるというのが現状です。

そこで、私たちは研究所の発足以降、昆虫食を普及する活動を行ってきました。

例えば、栄養学の教授や災害ボランティアチームのリーダー等と連携し、美味しい昆虫料理のレシピの考案や様々な食用昆虫の栄養面での優位性等の研究を行っており、湯浅醤油有限会社様と共同でカイコの繭を発行させての醤油（シルク醤油と命名）の開発等も行っております。

また、関西各地で「関西虫食いフェスティバル」等のイベントを主催し、美味しい昆虫食の試食や情報提供を行っております。

しかし、このような活動を行うにあたって、任意団体のままでは、公的機関や民間団体等との連携や各種契約等について制約が多くなることがあります。そこで、私たちは、このような問題を解消するには、特定非営利活動法人を設立することが望ましいと考え、特定非営利活動法人の設立認証申請をするに至りました。

私たちは、今後の活動の大きな柱として、下記の5つを考えております。

- ①新たな昆虫食の開発
- ②災害時等の緊急事態における救荒食としての昆虫食の開発
- ③貧困地域への昆虫食による支援
- ④宇宙農業としての昆虫食開発